七月十四日　夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金一ケ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
編輯兼發行所福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

敵討

五月雨沼

木津茂太郎

二

次の日である。

淺香沼のほとりに立つてゐる旅姿の侍があつた。勿論笹川長九郎であつた。

長九郎は昨日の舟の中の女のことを考へてゐた。又墨田がどうしてこんな處に何にをしてゐるのかとも思ひ廻らした。今日は雨が降つて居ず、苫舟の影も見えなかつた。

と、人の足音が聞えて來た。

長九郎は首をねぢ向けたそれから彼は木かげへ忍び込んだ。昨日の浪人がふら〳〵と此方へ歩いて來るのであつた。

木かげの前を通つた時

「待つて呉れ！」

と長九郎は鋭い聲で呼び止めた。

「え？」

浪人は見返つてぎよつとした。

「笹川だ、長九郎だ、お主に殺された長兵衛の息子だ潔く覺悟しろ！」

手が刀の柄糸にぐつと喰ひ入つた。

「長九郎？一向に存ぜぬ。人違ひでござる。敵と呼ばれる覺えはない。」

「白々しい嘘を申すな。」

「亂暴な——全く人違ひだ拙者はこの村に住む郷士河合三十郎と申す者……」

「嘘を云ふな！」

「いや、誰が嘘を申すものか！」

「えい！」

蛇のやうな銀光がすつと走ると、浪人はばつたりと草の上に仆れた。血がどくどくと流れ出した。

長九郎の胸は喜びにふるへた。

長年の敵を遂に討ち取つたのだ！

うれしい事だ！

歸參が叶へる！

三

過ぐる日沼の上に初めて見た美しい娘——お兼。

お兼はその村の庄屋の姪であつて、都から病の保養に來てゐるのであつた。長九郎はお兼にぞつこん參つてしまつたのである。

彼は庄尾の屋敷外をうろついたが、お兼を見る事は出來なかつた。

ある夜、即ち五月二十三日の夜のこと。

お兼は直ぐ附近の町に掛つた芝居を見物に行つてのかへり道。

地獄の一丁目の樣な間道であつた。

「お娘、〳〵。」

お兼は足を止めて、下男に云つた。

「久藏や、何んだか誰か呼んでゐるやうね。」

「へえ、お娘〳〵つて云ふやうですよ。」

ガサ〳〵と竹藪を分けて長九郎が出て來た。彼は黑い布で顏を包んでゐた。久藏は怪訝な顏をした。

「あれ！」

とお兼。

「騒ぐな、待つて居つたのぢや。」

久藏は眼を見張つて、

「お……、お前さんは何者だ！」

「あゝ怖い。」

「旅の者だ、娘をわたせ」

「あれつ！」

「えゝ、邪魔者め！」

青白い閃光が暗に流れたと思ふと、久藏がザツザーッと藪に音を立てゝ轉落して行つた。長九郎はお兼を横抱きにすると、笹を足で蹴つて走り出した。

しばらく走ると小さな丘があつた。その暗い木立の中へ長九郎は這入つて行つたが、お兼がどういふ目に合つたは一向知られなかつた。

▼○○○●○○○▲

※文藝募集※

内科・小兒科・花柳病科
藤沼醫院
入院需應
電話五〇七番

御料鹽（コーン）豚（ポーク）
田町　三二三屋
電話三二三番

金銀プラチナ高價買入ます
平町田町丸新デパート假營業所
根本時計店

涼味百パーセント菊地の白◎靴◎
お若いお方にノーブル型
最新角型はモダン好み
お中年のお方は先細型
とてもシイクで値が安い
當店自慢のリネンシユー
三、二〇ヨリ……五、〇〇マデ
平四　菊地靴鞄店
電話（呼）四三六

平新川町十九
外科・産婦人科　木村病院
電話一六四番
産婦人科　院長　木村寅次郎
内科・整形外科・泌尿器科　醫學士　内木宗八

季節御料理
柳川　一人前　金二十五錢より
うな丼　金三十五錢
蒲燒　金五十錢
金五十錢より
右大々勉强出前迅速
◎滋養豐富！風味美味！
是非一度御試食を……
大蒲燒・鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚榮
田町（電話四二四番）

貸切の●●●
御用命は？
獅子吼（シク）（四四九）ノ勢（イキホイ）デ
眞先（マツサキ）ニ……（マツサキ）
三九二（ミクニ）タクシーへ!!!

お客樣本位の……
正確な時計
平一常盤屋時計店
好適の眼鏡

花の心に大きな感激

第二校の花祭に感激狀續々來る

既報平第二小學校の花祭り當日生徒の各病院入院患者慰問の美擧に對しては其後各病院や患者より續々と同校宛感謝狀が舞ひ込み如何に同催しが氣の毒な病者達に大きな感銘を與へ然も感謝を以つて迎えられたかを物語つて居るが左は感謝狀の内の一つである

七月七日の日を花祭りと定めて花の精を祭つて一日をプログラムの進行に任せて樂しく活す皆さんの心がお羨しうございます。そうして皆さんの和やかな心と花の精との結晶の花束を私達にお贈り下さいましたことは何ともお禮の言葉に苦しむほどのことです。

皆さんのこのやさしいお心とお祈りを頂戴して私達の病魔も直ちに逃げ去るでせう。

お蔭様で毎日毎日快い日を送つてゐます。

これも皆さんのお心によるものと思へば何とも言ひ得ない次第です。

「花を賞するものに惡人なし」とか全くです。皆さんのやうなやさしい心の持主ばかりがこの世に住んでゐたとしたら、どんなに平和でせう。

私達も皆さんと共に花の心を心として世渡りをすることに致しませう。

ではも一度お禮を言はさして下さい。どうも有かたうございました。

皆さんもせい〳〵御健康にお氣をつけ下さい。

さようなら

昭和七年七月十二日

松村醫院入院患者一同

平第二校の皆樣

共濟事業助成會

昨夜規約整定

平町各共濟委員は昨十三日午後七時より町役場會議室に參集、助成會規約の整定及び寄附金募集並に同潤會資金の助成會移讓等に就いて協議を行つた

參會者一同が新造磐城丸に試乘

昨日の竣工祝賀式

昨報本縣漁業指導の新造船磐城丸の竣工祝賀式は昨十三日午前十時より小名濱水産試驗場内に於いて擧行神官の修拔あつて鈴木技師の建造經過報告あり知事代理赤土内務部長並に來賓の祝辭等に續いて廿五年勤續の水夫長金子富次郎氏を表彰して閉式午後一時よりは參會者一同を試乘せしめ大敷網漁業を視察したが午後四時よりは同町新米に於いて盛大な祝宴を催した

傳染病防止

平役場の注意書

平町に於る本年度の傳染病患者は腸チブス十二名、赤痢三名、猖紅熱二名、疫痢二名、ヂフテリア二十五名合計四十五名の多數に達し昨日の如きは一日に五名の疫痢患者を出し一名は死亡し一名は重態にある等今後益々猖獗の模樣があるので町役場では近く左記の注意書を全區に豫防警戒に努むる由

△蠅の驅除を圖り便壺を密閉し蠅の侵入を防止する事

△食物の飲食に注意し努めて煮燒して食する事

△食器の煮沸清毒を勵行し手を特に清潔にする事

△惡寒、發熱、下痢、嘔吐を催したる時は直に醫師の診察を受ける事

△万一患者發生したる場合は病院へ入院する間、看護者は患者に接する毎、手の消毒を行ひ布片、汚物等は一定の場所に置き消毒を行ひ散亂せざる樣注意する事

養蠶共同購入

石城郡夏井村養蚕實行組合では初秋蚕の産種が統一に關し來る十五日午後一時より村役場に於いて幹部會を開き産種の共同購入其他に就いて協議を行ふと

第三校生徒の球技會を開催

平第三小學校にては明十五日午前八時より全校生の球技會を催すが各學年の種目は左の如くである

（一二年）バスケットボール（三年）圓形ドッチボール（四年）方形ドッチボール（五年）フットベースボール（六年）プレーグランドボール

王樣クレオン入賞兒童

既報平第二第三兩小學校にては本年三月東京王樣クレオン商會第七回全國小學生圖畫展覽會に各々兒童作品を出品したが本日左の如く入賞通知あり賞品及び賞狀を送附し來たので明日午前八時之が授與式を行ふと

▽第二小學校

優良賞　尋一白土アイ

佳作　同　仁平米子

同　尋二鯨岡　久

同　尋六齊藤喜代子

▽第三小學校

佳作　尋三諸橋富彌

優良茶種

郡農會が斡旋

石城郡農會では今回優良茶種を各町村農會に廉價にて斡旋する事になつたので本日午後一時より團体事務所樓上にて各農會員と打合せ會を行なつた

第三校へ參考資料

寄附申出

平第三小學校に對し此程左の如き教育參考資料の寄附申出があつた

（爆彈三勇士額）五丁目諸橋久太郎（東郷元帥鑄像）磐城片倉製糸工場所長辰野賢藏（額縁）南町橋本喜七（伊勢皇大神宮禰宜）鎌田町猪狩觀德

磐女海邊水泳

希望者を健康診斷

既報磐城高等女學校水泳部にては來る八月一日より久之濱影磯海岸に於て練習を行ふ希望者七十五名に達したので明後十六日健康診斷をなし萬全遺漏なきを期すると

磐中及平商選手歡送

昨日の盛況

既報磐中及び平商野球部の歡送會は昨日午後三時より平商業學校講堂に於て磐陽野球協會長吉田金作氏の開會の辭に始り兩野球部長挨拶に次いで阿部政右工門、新田目春松の兩氏激勵演說を爲し茶話會に移り午後五時半堀喜一氏の閉會の辭に依り閉會したが出席者五十餘名に達し頗る盛況を呈した

平町人事

回出生

△大町一五　西山松之助氏二女　德江

回婚姻

△南町三三　田村正顯氏（二五）福島市字松本二飯野トキ（二二）

回死亡

△鎌田町四〇　加藤信夫（七ツ）

例年の通り
氷水及び色々の新口な飲料水を初ましたから側年の通り御引立御用命下さい。
調味は百パセントデスの！
山盛
特製
アイスクリーム　十錢
あづきアイス　五錢
ミルクセーキ　十五錢
リーダ水（色々）十錢
氷スイカ　十錢
氷金とん　十錢
氷パインアップル　十錢
外澤山メヅラシキ飲物御座い升
平町三丁目
出前迅速
節子食堂
話電六三三番

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

勇名を走せた 植松少將は 伏見平町長の教へ子

▽……恩師の請ひを容れて ▽……十七日平町で、戰爭談

上海事變の海軍陸戰隊長として勇名を天下に轟かした相馬出身の植松少將は凱旋報告と展墓の爲め歸省したのを

好機と し縣下各地にて講演を傾聽すべく引つ張り凧の有樣で寸暇ない繁忙さであるが同少將が小學校時代の敎師であつた伏見平町長を始め在鄕軍人聯合分會青年團等でも此際是非平町にても少將の講演會を開催せんと種々懇請の結果同少將は來る十六日の郡山市安積中學校講演會よりの歸途十七日午前十時三十三分

平驛着 列車にて來平同日午後三時より平署會議室に於いて講演會を開催する事と決定を見たので此の凱旋將軍を迎ふる十七日の平驛頭は各小學生、青年訓練所生徒並に主催者種團体の歡迎で非常な人出を見るであらうと

本日親權者齊藤新一の同意書を添へ陪審裁判を辭退したので近日中平支部に於て中島裁判長係りの下に公判

映畫の觀覽者

小人が多い

一ケ月の入場者は總人口と匹敵する

平町映畫界に兩立する世界館及び平館の六月中に於ける成績を見ると入場者は兩館を合して三万一千七百九十一人に及び平町の總人口に匹敵するが其收入額三千九百五十二圓十五錢で一日の平均は百三十餘圓に過ぎず營業者も樂は出來ませんとコボして居るが入場者中大人は一五七五七人小人は一六〇三四人で小人の方が一千人以上多いと

放火娘

陪審裁判辭退

石城郡內鄕村大字高坂字高橋一番地ノ一無職齊藤梅代（一七）假名が夫婦約束迄した佐藤武が他に情婦あるを知り欺かれたと恨み同人方へ放火した事件は既記の如く去る十二日豫審終決したが石城郡內鄕村字綴地內畑地で今曉二時頃野菜數十餘貫を窃盜せんとする者あつたのを密行中の平署員が取押へたが同人は秋田縣山本郡藤琴村字下町生れ住所不定無職伊藤友次（二九）で目下餘罪取調中また十三日午後十時頃同村字平太郎二九雜貨商菅原タカ方に忍入り敷島十六ケを窃取逃走せんとする犯人を同く平署員が檢擧したが同人は耶麻郡猪苗代町字新堀生れ目下同村宮の須川利夫（三三）と云ふ無職者と判明した

無職者の窃盜

野菜と敷島

ライオン齒磨 書方應募 入選

第二校の分

既報平第二小學校にては此程ライオン齒磨本舗の書方懸賞に應募する爲め去る九日全校生徒に對し豫選を行つたが更に八十餘名に對し本日嚴選を行つた結果入選者は左記の如く各々出品する事に決定した

△尋常科（一學年）麻植昌子　中野靜子　櫛田淑子　藤松本ミヨ　鈴木シヅ　藤野トミ（二學年）佐藤ミチ　大嶺悅子　五十嵐澄子　千葉恰子（三學年）海津吉子　馬目靜　木田秀子　淺野敬子（四學年）鳥海珠　飯塚さと子　佐藤久子　鈴木スズ子　上原文　大和田順子　根本ツネ子（五學年）石山小夜子　佐々木繁子　大和田智惠子　廣邊昌子　中野弘子（六學年）熊トリ子　鈴木ヨシエ　江原孝子　氏田ハツ　松本節惠

△高數科（一學年）西部ユソ子　平田靜子　玉木靜　鳥海和（二學年）根本八重　神場艶子　曹錫玉　諸橋クニ　諸橋クニ　和田登美子　田村まり子

誘拐した女を 宿屋に置去り

仙臺市肴町旅館吉田屋に去月三日石城郡湯本町字高倉居住高木惣一（三〇）同人妻今朝代（二三）とて兩名投宿し九日迄滯在し實父の勤先石城郡磐崎村字梅ケ平小野田病院に行つて金策して來ると今朝代を殘して出發した儘今日に至るも姿を見せず旅館では宿料三十一圓三十錢に達して居る事とて今朝代に事情を聞くと妻ではなく誘拐されたとの事に本日旅館主より平署に高木の捜査願を提出し來つた

澤村墓前祭

石城郡草野村澤村神社では本日澤村勘兵衛の命日に當るので同社境內で午前十時より盛大な墓前祭を擧行した

組合事業聯絡協議

勿來町農會で

石城郡勿來町農會にては現在農事改良實行組合が十六組合の多數に及んだので各組合の事業聯絡上來る十六日午後一時より勿來青年會館に於いて各組合長の聯合役員會を開會終つて郡農會柴田技手の組合經營に關する講演があると

校外の取締

磐城女校協議題

磐城高等女學校にては既報の如く明日午後二時より平商業學校に於て開かれる平町各中等學校及び各小學校の校外生徒監督係り打合せ會に左の如き協議題を提出すると

一、平町兒童生徒登校の際左側通行勵行の件

一、夏期休業中特に風紀取締に關し各校に具体案あらば參考のため承りたし

明日のラヂオ

仙台放送局

十五日

天氣豫報

今晩は南西の風一時晴れ曇り明日は南西の風天氣よき見込み

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 童話「上等兵の新盆」安倍季雄

▼後六、二〇 コドモの新聞 樫葉勇

▼後六、三五 カレントトピックス、ハロルドバーマ

▼後七、三〇 講演

▼後八、〇〇 獨唱と合唱 仙臺オラリトリオ協會

▼後八、三〇 筑前琵琶「屋島」山根旭線

▼後九、〇〇 連續講談「野狐三次第四席」神田伯治

▼後九、三一 滿洲より

明日の部

▼後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

▼前九、一〇 料理獻立「牛肉モード煮」菊地貞子

▼前一〇、三〇 家庭講座「上海事變の從軍布敎使として」本派本願寺敎師 豐原靑雲

▼後〇、〇五 ラヂオトラマ「未亡人」五月信子一座

▼後二、〇〇 婦人講座「子を思ふほど親を思へ」高島米峰

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「光」吉城肇蔚

▼後六、二〇 コドモの新聞 樫葉勇

▼後六、二五 カレントトピックスハロルドバーマー

▼後七、三〇 講演「維新鴻業の翼贊者德川慶勝鄕と之を繞る人々」神宮皇學館敎授愛知縣史編纂委員 若山善三郎

▼後八、〇〇 浪花節「め組の辰五郎」妻川歌燕

▼後八、三〇 三曲「靑柳」川瀨里子外

▼後八、五〇 連續講談「野狐三次終席」神田伯治

映畫說明 人氣投票

讀賣新聞仙臺

支局主催の藝人々氣投票の映畫說明で平館辯士石井孝君は仙臺文化キネマの北原英太郎君と一騎打の姿にあるが明日の締切發表では一等の榮冠を擔ふべく確實視されて居る

平職業紹介所報告

回求職の部

△女中　二十才前後　尋卒　給料面談（平町某）

△出前持　十六才　尋卒　給料面談（平町某）

△兒守　十四才　尋卒　仕着小使（平町某）

回求人の部

△雜役　二十一才　尋卒　給料面談（內鄕村某）

△土工夫　四十三才　尋卒　給料面談（平町某）

△染物外交員　二十三才　尋卒　給料面談（平町某）

△染物工　二十二才　商工學校卒　給料面談（赤井村某）

蒙古襲來

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百一席　眞庭念流達人櫻井五助

要介が苦内の計略

出雲屋の主人佐兵衛は勘定書を女房に持たして遣り自分は廣澤の兵右衛門の泊つて居る旅籠に參りまして佐『親分いよ〳〵林藏と秋山が明朝の八ッに江戸を指して出立します』

兵『さうかよしそれでは途中に待受けて』

と茲で子分に沙汰をしたがさうでもない江戸に行くと行つて東海道へ出るかも知れぬとその方にも手配りをしました、こちらは秋山要介その晩は當分こゝの別れだと又酒を飲み出した・ベロ〳〵に醉つて九ッ頃枕に就いた翌日の四ッ頃に目を覺した、今で云へば午前十時頃

要『イヤどうも昨夜は大層酩酊した、床に入つたのを少しも知らぬ、林藏貴樣も大分醉つた樣だな』

林『イエ私はそれほどにも醉ひません』

要『さうか、時にもう何時だ、何に四ッだ、もうさうなるか、イヤ今から出立したところでこの日の短い時節何程歩けるものではない今日は逗留だ、コレヨ湯を持つて來イ、逗留いたゝぞ……』

女中『左樣でございますか……』

要『ドレ顏でも洗濯して參らうか』

裏梯子から降りて湯殿に行く・廊下で此家の主人に

が御出立なさいとも云へない、直に此事を兵右衛門に知らした、逗留と聞きながら子分を出して置くもむだな事と四五人見張を殘して引揚げさした、秋山は相變らず林藏、周作、藤藏、岸丈右門を相手に一日酒を飲んでゐる夜に入ると

要『明日は朝六ッに出立をするから其用意を致して置けよいか、主人にも知らして置け』

恁云ふ佐兵衛之を聞いて直に兵右衛門の處へ知らせる、ソレと手配りをして夜の内から手落のない樣にして翌日の出立を待つた、此方は秋山その晩又飲み直して九ッ頃枕に就いた翌日四ッ頃に眼を覺して

要『何時だ、何四ッかイヤ大層遲くなつたナ、今日もとう留だ〳〵』

又出立を延ばす佐兵衛はこれを聞いて兵右衛門に知らした、これぞ秋山要介はどうか無事に林藏を東海道に落して遣り度いものと故意に酩酊して出立の日を延ばし、今日もとう留、明日もとう留と二日程出雲屋に居りました、廣澤村の兵右衛門が子分を率ゐて林藏の出るを待受けてゐたがとう留と聞いて

兵『いめえましい奴だ、又今日も飲みたふれたか、どうも仕方がねえ明日は出るだらう』

と待つてゐた、此方は要介その夜また酒を飲んで九ッ頃枕に就いた翌朝は何時より少し早く起きた、林藏は秋山の心中を知りませんから今日は立つと思ひ

林『先生御出立になりますか』

要『窓に音がするがあれは何んだ』

林『雨でございます』

要『ウム雨か雨では出立は出來ぬ、オウ〳〵大分ふつて來た』

と云ふ内にザッといふはげしい降になりました

要『とう留だ〳〵酒を持つて來い〳〵偶早く起きると雨のために出立を妨げられたか、さア〳〵酒だ〳〵』

又飲み始める、此方は廣澤の兵右衛門を始め鰍澤の藤兵衛、神興村の三右衛門が子分を伴れて今日は出立すると待つてゐたところへ出雲屋の主人が駈附けて來ました

佐『親分この雨で又とう留になれば折角親分が人數を出したもむだになると思つた出遇つた

要『今日は逗留いたすぞ、今から出立は出來ぬ』

佐『左樣でございますか、どうぞごゆつくりお遊びを願ひます』

云つたが腹の中で逗留となれば折角親分が人數を出したもむだになると思つた

又今日もとう留か、どうせ仕方が無え空を踏んで歸るとしよう』と子分を連れて旅籠に引上げた・秋山は酒を飲んで居りましたが七ッ頃になると窓に日が映じて來た

要『林藏雨はあがつたナ、ウーム快い天氣になつた勘定して參れ、イヤ直に出立する』

林『ヘエ先生もう今に日が暮ますが』

要『日が暮てもよい直に出立いたす・サア丈右衛門支度をしろ、藤藏、周作も支度いたせ』

足元から鳥が立つやう。

看護婦急派の求めに應じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

お醬油は……ヤマフル

醬油味噌
たひら正宗
鰹節食料品

鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町【電話營業部一〇釀造工場二七】
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

嗣子茂儀永々病氣之處療養不相叶昨十二日午後零時二十分死去致候間御通知ニ換へ此段謹告仕候

追而葬儀は來る十五日午後二時自宅出棺松堂院に於て告別式執行仕候

昭和七年七月十三日

平町田町
父　森本盛一
親戚　原精一
總代　加藤丈夫

石炭の大特賣

●塊炭正味十貫目一俵金貳拾錢

▼『品ガ良ク』『値ガ安ク』『目方ハ正確』デス

▽トニカク一度……使ッテ見テ下サイ

●配達ハ一俵ヨリ致シマス

御注文ハ

電話三七番

平驛前
阿部石炭商店